

令和5年度 地域ケア個別会議 実施結果

高齢者あんしん相談センター むさしの

日時及び場所	参加者	自立支援に資する討議内容
5月30日(火) 13:30～15:00 場所:南畑公民館2階会議室	介護支援専門員5名 サービス事業者4名 社会福祉協議会1名 増進センター作業療法士 1名 高齢者福祉課2名 高齢者あんしん相談センター5名  計18名	<p><b>事例①《ケース概要》</b> 要介護2。84歳女性。夫と長男と3人暮らし。長女はときわ台に在住。R3.12自宅で転倒し大腿部大転子部骨折受傷。翌日、人工骨頭置換術施行。術後リハビリを経て、自立歩行が可能となり自宅退院した。入院前より認知機能の低下は見られていたが、入院を機に進行。検査の結果、アルツハイマー型認知症の診断を受け、現在内服治療中。現在デイケア、福祉用具(シャワーチェア・4点杖、トイレの手すり、ベッドの手すり、ダイニングの手すり、外階段の手すり、玄関手すり、歩行器)の利用などで在宅生活の維持が来ている。</p> <p><b>《課題・検討内容・自立支援に向けて》</b> 認知症からくる意欲の低下や、気分のムウあり。歩行器のプレーキのかけかたが困難で、体重増加が著明。10kgほどの増量あり、足腰への負担が増し労作困難で活動量が低下している。パーキンソン病による歩行の不安定さも加わり、安全面から車椅子を使用することが増えた。体重増加と活動量低下の悪循環があり、転倒リスクが高い。 ⇒本人は今まで通りに自宅で生活したい希望がある。まずは運動量を増やすか、食事面の調整か、体重をコントロールしていく必要がある。また介護保険サービスでの外出や運動だけでなく、本人が出かけたいと思う通い場所の創設や、病院の栄養指導を受けるような疾患が無い方(一般の方)が相談できる栄養相談等も視野に入れていく。</p> <p><b>事例②《ケース概要》</b> 要介護1。85歳女性。夫と二人暮らし。子どもは2人、長男(千葉)長女(横浜)に居る。長男はほとんど連絡が無く疎遠。長女は月に1度連絡があるかどうか程度。 変形性膝関節症にてH29年に左膝、R4.3右膝の人工関節置換術施行。身体機能低下予防の為、デイサービスの利用を開始したが、今年に入りすくみ足やバランスを崩すことが多くなり、転倒を繰り返すようになった。。現在、デイサービス、福祉用具(特殊寝台、外階段の手すり、トイレの手すり、歩行器)、訪問マッサージを利用している。</p> <p><b>《課題・検討内容・自立支援に向けて》</b> 変形性膝関節症のため左右の人工関節置換術施行。思うように歩行ができなくなり、歩行頻度が減った。パーキンソン症状出現にて転倒を繰り返すようになり車椅子対応となったこともある。現在は、内服にて、歩行状態改善傾向ではあるが、まだ転倒リスクがある状況。介護・家事は主に夫がおこなっているが、免許更新ができない可能性があり、返納となると買い物が困ってしまう。 ⇒遠方の家族どの程度関わりが持てるのかなど確認しつつ、買い物に行くことが出来る、もしくは買い物に行くことができなくても自宅で生活することが出来る方法・資源を見つけていく必要があるが、介護保険外の地域資源が不足している実情もあり、新たなサービスを創設することも視野に入れ、対応にあたっていく。</p>
6月16日(金) 13:00～14:30 場所:ふじみ野交流センター3階集会議室1・2	介護支援専門員3名 サービス事業者6名 社会福祉協議会2名 増進センター作業療法士 1名 高齢者福祉課1名 歯科衛生士1名 高齢者あんしん相談センター5名  計19名	<p><b>事例①《ケース概要》</b> 82歳女性。要介護1。生活保護者。頚椎症性神経根症、両変形性股関節症、両変形性膝関節症、骨粗鬆症、高血圧症。年々足腰は弱くなってきてはいるが、出来ることは自分でやりたいとの強い意向がある。4月に胆のう炎のため入院をしたが理由をはっきりと話してくれない。退院後はADLやIADLには大きな変化はなかったが、週1回通所していたGENKINEXTを休んでいる。こぶしの里でもリハビリを拒んでいたが、最近少しずつ歩行訓練を再開した。話し上手で、会話好きだが、耳が遠く、会話内容を十分理解をしているかは分からない。また、以前より言動にはこだわりがあり、最近は同じ話を繰り返す様子も見られ、認知能力低下が疑われている。</p> <p><b>《課題・検討内容・自立支援に向けて》</b> GENKINEXTでは口腔機能向上加算を取っているが、ケアマネジャーとして導入や評価の判断に戸惑いがあり、今後どのようにケアプランに位置づけていけば良いか迷っている。 また、現在GENKINEXTを休んでいるため、口腔機能チェックができていない。加算があまり効果がないとの評価であれば止める。本人の気持ちを伺いながら口腔ケアの大切さを説き、日常の自立した口腔ケアを通して衛生や機能向上を図っていく。通所や訪問サービスでも口腔ケアを意識して促す。矯正歯科衛生士からは、上5本下5本の残歯と部分義歯でどのように物を噛んでいるかが気になる。一度歯科受診をして噛み合わせを確認し指導を受けた方が良い。</p> <p><b>事例②《ケース概要》</b> 76歳男性。要介護1。平成22年9月、パーキンソン病との診断を受ける。線状体黒質変性症、認知症、前立腺肥大。ゴルフを趣味とし、70歳まで仕事をする等、非常に活動的な生活をしてきた。しかし、パーキンソン病が徐々に進行し、上下肢の筋力が低下。起居動作が緩慢となり、転倒の頻度が高くなった。そこで、令和2年10月歩行器貸与となった。令和4年10月、自宅で転倒。左肘、左下腿を受傷。その後発熱し救急搬送され、左下腿蜂窩織炎と診断され入院となった。最近は言葉も上手く出なくなり意思疎通が難しくなってきた。身体介護が増えたことから妻の介護負担も大幅に増している。</p> <p><b>《課題・検討内容・自立支援に向けて》</b> ・平成22年(13年間前)に発症したパーキンソン病が進行し、今まで出来ていたことが思うように出来ず、言葉で意向をはっきりと伝えられないこともあり本人も苦悩しているが、助言にあまり聞く耳を持たない。むせこみや食べこぼしの評価が的確ではない。本人は自分から大げさにはしないが少しは気にしている。再評価による丁寧なケアプランの見直しを行い、ADLやIADLは勿論、細やかな要望やこだわりをしっかりと受け止め、何をやるか何が出来ないかを一緒に考える機会を増やしていく。その際には、こうなりたいとの明確な目標と手段を定める必要がある。また、ケアマネジャーとして社会参加を促したいのであれば、言葉での会話は難しいかもしれないが、高齢者間では笑うだけでもしっかりとした社会性やコミュニケーションが取れることが多い。具体的な提案を前向きな言葉を添えて積極的にしていく。矯正歯科衛生士からは、口の動きが狭く、嚥下や口腔ケアも難しくなっている。自力でできることは少なくなっているが、何事も工夫次第。例えば歯ブラシはヘッドが大きく、使い勝手が良いものを選ぶ。また、いずれは口がしっかりと閉じれなくなることが予想されるが、効果を説明し、ほっぺたを膨らませる予防運動を今から推奨することで本人の気持ちも前向きになると思う。</p>
9月15日(金) 13:00～14:30 場所:ふじみ野交流センター3階集会議室1・2	介護支援専門員4名 サービス事業者1名 高齢者福祉課1名 高齢者あんしん相談センター5名  計11名	<p><b>事例①《ケース概要》</b> 85歳女性、要介護1、夫(要支援1)と2人暮らし。体力・気力低下から外出等できなくなっている。定期的に屋外に外出する機会ができ、リハビリをする事で筋力低下予防及び筋力回復し歩行できるように支援している。問題点として夫への暴力や暴言が酷く、子供は関わりを持ちたくない様子。長女へ夫がSOSを伝えている。介護サービス利用で何とかしたいと希望あり。 既往歴:変形性腰椎症、左変形性膝関節症、現病歴:糖尿病(内服治療中)、橋本病(内服治療中)</p> <p><b>《課題・検討内容・自立支援に向けて》</b> 現在のサービス:きらめきリハビリデイサービス週1回。かわせみの会(増進センターでの運動)。買い物代行にて訪問介護週1回。寝具の乾燥サービス(富士見市)。 結婚当初宗教に入信していたが現在は離脱している。安倍総理の襲撃事件で記憶がぶり返してしまった。暴力的とは他者からは想像が出来なく、家族にしか見せない姿で、対処できない。傍で見て夫婦間の関係性は良好に感じる。遠方に出かけた際、ハンドルを取ってしまい心中しようと危険行為がある。茶碗を投げつけ手で殴られる。暴言が酷い。精神疾患の疑いもあり、主治医から専門医受診を勧められているが、受診に繋がれず困っている。</p> <p><b>事例②《ケース概要》</b> 82歳女性、要介護1、認定当初は娘と孫2人と同居していたが、今年5月より市内アパートに引っ越し独居。氏の夫は三芳町在住し、息子と2人暮らし。離婚希望だが離婚できていない。夫・娘・息子とは確執があり、関係性が悪い。骨折後の為、歩行が不安定であり、定期的な運動の導入、自宅の環境整備の必要性、歩行器貸与にて福祉用具及び住宅改修導入。 既往歴:卵巣嚢腫、両耳鼓膜再生、脊柱管狭窄症、高血圧、白内障OP、左大腿骨転子骨折 現病歴:大腿骨転子骨折、高血圧(内服治療中)</p> <p><b>《課題・検討内容・自立支援に向けて》</b> 現在のサービス:コンパスウォーク週2回。歩行器の福祉用具貸与、住宅改修にて浴槽手すり設置、玄関段差回避、上がり框の手すり設置にて住宅改修。 お見合い結婚であったが、当初から相性が悪く、精神的・経済的苦痛にて弁護士相談し、2度裁判。離婚を進めていたが、夫が離婚に応じず(籍を汚したくない)別居のまま過ごしている。夫からは5万円/月振込あり、自身の年金が6万円/月、家賃が4万。生活保護申請中。心の健康相談。生活サポートセンターに相談し、月の収支や安定した収支ができるよう指導が入る方が良いのではないか。リーガルサポートに離婚の強い弁護士相談。デイサービスの1日型などに変更して話相手ができる方が良いのではないか。</p>